

伊藤 剛(いとう ごう)先生のプロフィール

- 勤務先 学校法人北里研究所 北里大学東洋医学総合研究所
- 経歴 昭和57年 浜松医科大学附属病院(第一内科)
昭和58年 浜松労災病院
昭和61年 浜松医科大学内科学第一講座(平成3年より助手)
平成8年 社団法人北里研究所 東洋医学総合研究所 漢方・鍼灸
平成28年現在 北里研究所 東洋医学総合研究所 漢方鍼灸治療センター
副センター長(臨床准教授)
- 専門
内科 日本内科学会(内科認定医)
消化器科 日本消化器内視鏡学会(認定専門医・指導医)、日本神経消化器病学会
(会員)日本消化器病学会(消化器病専門医)
漢方 日本東洋医学会(漢方専門医・指導医・代議員)、和漢医薬学会(会員)
鍼灸 全日本鍼灸学会(会員)
自律神経 日本自律神経学会(評議員)
ストレス 日本ストレス学会(会員)

◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

父親が薬剤師だったので、中学校頃から風邪の時に葛根湯や小柴胡湯など、市販の漢方エキス剤を時々飲んでいました。



◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

現在は漢方(湯液)治療と鍼灸治療を主とする職場なので、漢方薬を効かせることが求められています。専門の消化器内科疾患を始め、冷え性、心身症、皮膚科疾患、また、現代医学的治療でうまくいかない疾患等々に対し、漢方治療は大きな効果を引き出してくれています。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方鍼灸治療センター内での漢方治療はほぼ100%近くが漢方薬。
週一回、北里研究所クリニックで使用している西洋薬の割合は30%ぐらいだから、全体で漢方薬の比率は、95%ぐらいです。



◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

現在よりさらに漢方治療に対する評価が高まり、漢方薬が様々な診療科で多用されるようになっていでしょう。

しかし、漢方薬が使われれば使われるほど薬草資源枯渇が早まるので、早急に国内や中国以外での薬草栽培を促進しなければ、10年後の漢方医療は決して明るいとは言えません。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

小さい頃から漢方薬を飲んで効果を実感しています。現在も体調の悪い時は漢方薬を飲みながら診療し、だから仕事も続けられているのだと思います。

◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

現代医学は日々進歩し、知識はどんどん古くなりますが、漢方の知識は古くなることはありません。だから漢方を志すには焦ることなく、まず現代医学をしっかり身に付けることが必要と思います。

そして漢方の古典を勉強すればするほど、経験が増せば増すほど新たな発見があり、現代医学の進歩と共に新しい医療を構築していく事が可能です。

◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方においては漢方薬も重要ですが、漢方的診断があつて始めて薬が生きるものです。また漢方薬は万能薬ではありません。しかし現代医学で治療がしにくい分野で、漢方薬が治療を得意とする分野があるのです。もっとも薬ばかりに頼らない事も重要です。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

青春の夢に忠実であれ



注意：先生へのインタビューは、当会が2009年7月に行った内容です。